

「一」次の文章を読んで問に答えなさい。

春は毎年めぐってきて、過ぎ去っていく。

ヨモギやセリ、ツクシが顔を出し始め、山のタラの芽がのびるころになると、私はきまって幼かったころの楽しい日々を思い出す。この時期、若かった母はがぜん、張り切りはじめる。

「明日はみんなでつみ草よ」

母のその一言で翌日の日曜は、家族そろって田んぼや山へ楽しいハイキングだ。のりを巻いた梅干し入りの大きなおにぎりを持って出る。まっ白なご飯と梅干しの深紅、卵焼きか、タクアンの黄色が目にあざやかだった。

昭和二十五、六年ごろの保土ヶ谷区には、まだそんなことのできる、田や山が近くにたくさんあった。

帰ると母は大忙しだ。アクが出ないうちにつんだり採ったりしたものをゆでなくてはならないから。その日の夜は季節のかおりたっぷりの、新せんなヨモギやタラの芽の天ぷらだ。大皿に山盛りのお菜も、長時間歩き回った後の食欲で、見る間に空になってしまう。

翌日、学校から帰ると、ゆで上がったヨモギのたっぷり入った草もちがもう作られていて、食たくの上に乗っている。貧しいながら、両親の愛情いっぱいに育った小学校時代、世の中のみんなが質素だったから、少々つましきなど、ちっともはずかしいことではなかった。元気いっぱい仲良く飛び回って遊んだ。

でも、そんな好きな草もちにも、長い間、問二私の心にこだわりを残したちよつと苦い思い出がある。

昭和二十三年の春、私たち家族は栃木県に住まいを移した。次男坊で苦労知らずだった父は、戦災後の生き方がへただったようで、このころが私の家では一番貧しい時期だったらしい。翌年、その地で小学校に入り、初めての遠足の日だった。

母は少しばかり残っていた小豆と砂糖を使って、草もちを作ってくれた。そのころおかしなど売っていたのか、

買えなかったのか、今となっては分からないが、おむすびのほかは何か持たせたかった母の、心づくしだったの
 だろうと思う。草もちがたった五個だけれど、立派にできあがった。

「ほら、おいしそうでしょう。先生にも二つ差し上げるのよ」

そう言って、にっこり笑った母は弟に見つからないようにそっと、リュックサックに包みを入れた。私は、母
 があまいものが大好きなのを知っていたし、弟だって見つければ欲しがることも分かっていた。だから二つは先
 生にあげて、自分は一つだけ食べ、あとの二つは残して帰ろうと決めて、学校に向かった。

「先生よろこんでくれるかなあ。おいしいって言ってくれるかな」

そう思うと早く遠足に行きたくて、自然とかけ足になった。とても楽しいことが待っているような気がしたの
 だ。^{問四}背中のリュックがユサユサとゆれ、カタカタと鳴っていた。益子の白山というなだらかな山に登り、待ちど

おいしいお昼になった。友だちが広げたお弁当はさまざまだ。色とりどりの、のり巻きの子、私のようなおむすび
 の子、おイモだけの男の子。そして、果物まで持ってきているお金持ちの子もいた。みんなが少しずつ、「お味
 見」を先生のところに持っていくので、先生のひざの上は、食べ物でいっぱいになる。私も「先生にあげなくて
 は」と勇んで包みを開いた。

「う、なにこれ」

そこには五個の草もちではない、おっきい団子がくったりとのっかっていた。

^{問五}「でもお母さんが作ったんだから、あまくておいしいんだ」

私は大好きな先生に、どうしても食べてもらいたくて、そのかたまりを手で、ウンニャッと二つに分けた。そ
 して先生に言った。

「あもう、小さい団子がくっついて、大きくなっちゃったんですけど」

「ありがとう、おいしそうね。お母さんにごちそうさまって言っておいてね」

先生は、そうおっしゃってくださいました。やっぱり先生は優しい、大好きと思った。

^{問六}でもその後、私は見てしまった。クラスでいつもすみの方にいたちよっとよごれてにおう女の子に、先生がそ
 の大団子を食べさせているのを。

母に悪いと思った。私が足をはずませすぎ大団子になってしまって、先生にはまずそうに見えたのだ。本当は
 私の母さんだって、食べたいのにがまんしていたんだ。お姉ちゃんや弟にだって食べさせたかったのに。家に帰っ
 た私は、そんなこと母には絶対言えないと思った。

「先生がとてもおいしいって、お母さん作り方じょうずねって言ったよ」

私は帰る道々、考えていた言葉を母に伝えた。大団子になっていたことも、言ったら母が悲しむような気がし
 てだまっていようと決めた。ふだん「うそをついてはいけません」と、厳しく言われていたのに平気でうそが言
 えた。^{問七}

でも、今にもえんま様がおこって「うそつき！」と舌をぬきにくるのではないかと、私は長い間おびえた。^{問八}残っ
 た草もちは、仲良しのまっちゃんと二人、笑いこけながら、手をベタベタにして食べた。本当は先生なんかじゃ
 なく、まっちゃんが「おいしかったね」って言ってくれたのだ。

このごろはいつでも草もちがあり、目につくとちょっぴり心がしぼんで痛くなる。

私には五歳年上の聴覚障害のある姉がいる。先日、その姉のところで、草もちをいただいた。今までだれにも
 話したことのなかったそのことを、さりげなく姉に話してみた。

「でも先生がいなかったら、私は読み書きがこんなにできなかった。心の優しい先生だったわよ」

姉がとつ然言い出した。とっさに意味が分からなかった。私がたずね返すと、そのころはまだ、栃木の家在近

くには、聴覚障害者の学校がなくて困っていると、母が先生に話したらしい。教育者としてほうってはおけなかったらしい先生が、私のランドセルに何冊かの本を入れては、

「お姉さんに読んでもらってね」

と、毎日貸してくださったと言う。本の好きだった姉はうれしくて、私が帰るのを楽しみに待っていたと話した。だんだんと難しい本になり、妹といっしょに勉強させてもらい、今でも感謝していると姉はなみだぐんだ。そんなことがあったなんて……。私はすっかり忘れていた自分にがく然とした。

問九

長い間のわだかまりがすうっと氷がとけるように消えていく気がした。あの草もちも、先生はきっとあの女の子に、あまくてやわらかいおもちを食べさせてやりたかったにちがいない、と思えてきた。

半世紀近くも、先生を誤解していた自分が情けなかった。謝りたい気持ちでいっぱいになった。

先生は今、どうしていらっしゃるだろうか。

（東郷時子「はじめての嘘」）

問一 この文章を大きく三つに分け、二段落目と三段落目の初めの五字をぬき出さない。

問二 部「私の心にこだわりを残したちよっと苦い思い出」とは具体的にどんなできごとを指していますか。六十字以内で書きなさい。

問三 部「おむすびのほかに何か持たせたかった母の、心づくしだったのだろう」とありますが、「心づくし」とは具体的にどんなことですか。

1 食べるのが精いっぱい貧しい暮らしでも、初めての遠足に味気ない弁当を持っていかせて、娘にはじをかかせたくないという気持ち

2 戦後の物のない時代にあって、初めて遠足にいく娘に日ごろ食べられない草もちを持たせて、楽しい思い出を作ってやりたいという気持ち

3 生きるのに必死な戦後の暗い生活の中でも、季節を感じる心のようがどんなに大切であるかを娘に知ってもらいたいという気持ち

4 戦後都会をはなれてから初めての遠足だから、いなか暮らしならではのおやつを持たせて、娘に早く友だちと仲よくなっているという気持ち

問四 部「背中のリュックがユサユサとゆれ、カタカタと鳴っていた」には「私」のどんな気持ちが表れていますか。簡単に書きなさい。

問五 部「でもお母さんが作ったんだから、あまくておいしいんだ」に表われている「私」の気持ちの説明としてふさわしいものを選びなさい。

1 見た目は悪くなってしまったが、母の作ってくれた草もちのおいしい味にはまったくえいきょうなどないという気持ちに考えている

2 草もちが大団子になってしまっただけで、手作りのありがたみという点では同じなのだから平気だと開き直っている

3 くっついて大きくなった草もちにショックを受けたが、母の愛情がこもっていることに変わりはないと自分に言い聞かせている

4 草もちをだめにした自分が情けないが、あまいものは貴重なものだからこの程度なら問題ないと考えているとで立ち直ろうとしている

問六 — 部「でもその後、私は見てしまった。クラスでいつもすみの方にたちよつとよごれてにおう女の子に、先生がその大団子を食べさせているのを」について答えなさい。

① この部分に用いられている表現技法を何と言いますか。

② ①の技法は、この文章の中でどのような効果をあげていますか。

- 1 草もちのゆくえを見たしゅん間に喜びが失望にかわったことを強調する効果
- 2 先生が草もちを食べてくれなかったくやしさを少しずつにじませてゆく効果
- 3 草もちのゆくえがどうなるか冷静にじっと見ていたことを印象づける効果
- 4 先生に対する激しいくしみが急にわき起こったことを暗示する効果

問七 — 部「平気でうそが言えた」時の「私」の説明としてふさわしいものを二つ選びなさい。

- 1 帰り道で母に言う言葉をくり返し練習していたので、いつの間にかうそだと思わなくなっていた
- 2 先生が「おいしそうね」とうそをついたのだから、自分もうそをついてもかまわないと思っていた
- 3 先生の思いがけない冷たさに、真実などもうどうでもいいと投げやりな気持になっていた
- 4 母を傷つけないためには、本当のことを言わないのが正しい選択であると考えていた
- 5 楽しみにしていた遠足がありふれたものでしかなかったのを、母に知られたくないと思っていた
- 6 大好きな先生が食べてくれなかったということを、素直に受け入れることができないでいた

問八 — 部「残った草もちは、仲良しのまっちゃんおくと二人、笑いこけながら、手をベタベタにして食べた」時の「私」の説明としてふさわしいものを選びなさい。

- 1 先生が草もちを他の子にあげたといういやな記憶を、草もちともどもきれいさっぱり消し去りたいと思っている

- 2 先生が草もちを食べてくれなかったのをよいことに、自分たちで残りのものを全部食べてしまおうと思っている

- 3 どんなに形が悪くなった草もちでも食べてくれる「まっちゃん」の優しさに、うれしくなってはいしゃいでいる

- 4 「まっちゃん」もがまんして食べているのだろうと思うと、自分も明るくふるまわなければいけないと思っている

問九 — 部「長い間のわだかまりがすうっと氷がとけるように消えていく」とは具体的にどんなことを言っていますか。四十字以内で書きなさい。

「二」 次の文章を読んで問に答えなさい。

著作権上の都合により文章の掲載を省略しました

著作権上の都合により文章の掲載を省略しました

問一 部ア・イの文章中の意味としてふさわしいものを選びなさい。

ア オチである

- 1 そのあたりがぎりぎりの限界になっている
- 2 けっきょく皆が考えるのは同じようなことである
- 3 世間ではそのようなことが常識になっている
- 4 最後に行き着くのはその程度のことである

イ 底が見えすいて

- 1 悪意に満ちていて不快である
- 2 明らかに本心がわかってしまう
- 3 程度が低く聞くにたえないものだ
- 4 平ばんな結果に終わってしまう

問二 ～～～部 a・b と同じ意味で用いられているものを選びなさい。

a がんばって

1 私は早く宿題をおわらせるためにがんばって夜中の二時まで机に向かっていた

2 犬のポチは改札口の正面にがんばって飼い主が帰ってくるのをいつまでも待っていた

3 カウボーイは馬にふり落とされまいとがんばって必死にしがみついていた

4 委員長は自分の意見をおし通そうとがんばってだれの言葉にも耳をかたむけなかった

b ありありと

1 A君はうそをついたりせず思ったことをありありと話す性格である

2 B君はむずかしい科学の本でもありありとその内容を理解することができる

3 C君の発言を受け入れられない私はそれに反対する意見をありありと述べた

4 D君の話を聞いて私の頭に北アルプスの風景がありありと浮かんできた

問三 この文章では「ホラを吹く」という表現が用いられていますが、これと同じような意味を持つ四字熟語を選びなさい。

1 針小棒大 2 奇想天外 3 大言壮語 4 有名無実

問四 にあてはまるものとしてふさわしいものを選びなさい。

1 さまざまな行動を呼びさます

2 いろいろな想像を生み出す

3 とるべき態度を決定する

4 ふさわしい表現を学習する

問五 筆者が「現代人はまるで『ホラ』を吹かなくなってしまった」(――部)と考えるのはなぜですか。文章中の言葉を用いて簡単に書きなさい。

問六 ―――部「空想の楽しさによって現実の生活に『もう一つの見方』を与える』ような「ホラ」の例としてふさわしいものを選びなさい。

1 私の予想では、明日は大雨となり試験が中止になるはずなので、勉強しないでねむってしまおう

2 私は、地球上のあらゆる病気の人々を助けるために、医師になろうと一生けんめい勉強している

3 私は、地球温暖化が今以上進行しないように、宇宙から地球を大きなうちわであおいだ

4 私の家ではパンダを十頭育てていたが、ササの葉が不足して飼えなくなり動物園に預けた

問七 ―――部「ホラ吹き男爵不在の時代」とはどのような時代ですか。

1 正直に生きることが尊ばれうそをつくことがゆるされない時代

2 だれもが人と異なることをきらい個性をおしくそうとする時代

3 つまらない政治家のせいで人々が夢を持てなくなってしまった時代

4 多くの人が現実のわくをはみ出さない常識的な夢しかみなくなった時代

問八 ―――部「本質を先行させる」とはどういうことですか。

1 とりあえず何か言っておき、後からゆっくりその意味を考えてゆくこと

2 今までだれも考えつかなかった意義を先に作り出し、それを実現させてゆくこと

3 実現可能なことを考えるよりも、楽しい空想にふけるのを大切にすること

4 現実の社会をそのまま受け入れるのではなく、積極的に新しい社会を創造すること

問九 筆者の主張を八十字以内で書きなさい。

問十 この文章を読んであなたが考えたことを百字以内で書きなさい。

〔三〕 次の――部1～6のカタカナの部分を漢字で書きなさい。また、――部7～9の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

物事のコンカンにせまる

見張りをハイビする

タイコの植物を研究する

ヒレイをわびる

パリはフランスのシュフだ

ハチクの勢い

水鳥の羽音

旗をあげる

従順な牧羊犬